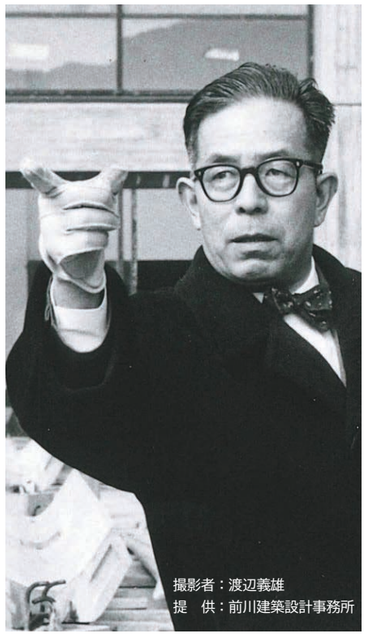
気が付けば、そこに前川國男建築があった

日本の「モダニズム建築」をリードした、巨匠・前川國男。弘前には前川の日本での第１作から晩年作までの建築作品が数多く残されており、前川作品の歴史をたどることができます。市民の日常に寄り添い、親しみのある前川建築を今一度訪れてみませんか。

■**問い合わせ先**　都市計画課（☎ 34-3219）



撮影者：渡辺義雄
提　供：前川建築設計事務所

前川國男（1905 – 1986）

新潟県生まれ。大学卒業後パリに渡り、近代建築の巨匠ル・コルビュジエ（設計した国立西洋美術館等の建築群が世界文化遺産に登録された建築家）に師事。帰国後、レーモンド建築設計事務所を経て前川國男建築設計事務所を設立し、国内外で多くの作品を手掛ける。

前川の母の生家が旧弘前藩士であること、留学中に弘前市出身の木村隆三と親交を深めたことなどから、帰国後初めて自身の名で手掛けた作品が、木村産業研究所となった。以降、弘前市とのつながりを深くしていく。

近代建築ツーリズムネットワーク

前川が手掛けた建築物を文化交流拠点として利活用している9自治体が連携し、近代建築の価値や魅力を広くPRし観光資源化を進めています。

連携自治体	利活用している前川作品
東京都	**東京都美術館** **東京文化会館** 国立西洋美術館新館
埼玉県	埼玉会館 埼玉県立歴史と民俗の博物館 埼玉県立自然の博物館
神奈川県	神奈川県立図書館 **神奈川県立音楽堂** 神奈川県立青少年センター
新潟市	新潟市美術館
岡山県	岡山県庁舎 林原美術館 岡山県天神山文化プラザ
福岡市	福岡市美術館
熊本県	熊本県立劇場 熊本県立美術館本館
石垣市	石垣市民会館

東京都美術館

提供：東京都美術館

東京文化会館

協力：東京文化会館

神奈川県立音楽堂

撮影：青柳聡

弘前の前川作品との主な共通点

打ち込みタイル
弘前市立博物館

鮮やかな色の通用口
弘前市民会館

ガラス張りのエントランス
弘前中央高校講堂

弘前で前川作品の歴史をたどる

見…見学可能　申…事前の申し込みが必要　不…見学不可
※各施設に関する詳細は市ホームページに掲載しています。

木村産業研究所（在府町）　見 申

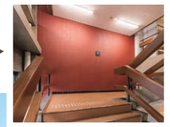
日本での初作品。水平に連続した横長の窓などコルビュジエの影響が見られる。

■見学申込先　弘前こぎん研究所（☎ 32-0595、午前10時～午後4時、土・日曜日、祝日は休み）

弘前市役所（上白銀町）　見

本館は高さを抑え、風情ある城下町の街並みとの調和が図られた。1972年には新館（現前川新館）が、2016年には市民防災館が増築された。

階段踊り場の赤色の壁 ▶



市立病院（大町3丁目）　不

増改築は行われているが、外壁よりも奥に配置した窓などは当時の面影を残す。

緑の相談所（下白銀町）　見

桜の枝を美しく見せるために勾配屋根にし、木々に合わせて建物の高さや配置を調整している。

斎場（常盤坂2丁目）　見 申

前川が設計した唯一の斎場で、弘前最後の作品。病床の妻を思いながら設計したという。

■見学申込先　斎場（☎ 32-0643）

23歳 1928年　コルビュジエに師事
25歳 1930年
27歳 1932年　帰国し、レーモンド事務所入所
30歳 1935年　前川建築設計事務所開設
神奈川県立音楽堂完成
49歳 1954年
53歳 1958年
54歳 1959年　国立西洋美術館の日本での設計担当
東京文化会館完成
56歳 1961年
59歳 1964年
66歳 1971年
東京都美術館完成
70歳 1975年
71歳 1976年
75歳 1980年
78歳 1983年
81歳 1986年　逝去

弘前中央高校講堂（蔵主町）　不

色鮮やかな外壁が目を引く。前川設計の音楽ホールの先駆けといわれる。

※学校敷地内への立ち入りはご遠慮ください。

市民会館（下白銀町）　見 申

ホール棟と管理棟をエントランスポーチで結んだ構成。星空のような天井や棟方志功原画の緞帳（どんちょう）、銅管を使ったシャンデリアなど見どころが豊富。天気が良い日は2階のテラスから岩木山を望むことができる。

■見学申込先　市民会館（☎ 32-3374、第3月曜日は休み）

◀ 星空のような管理棟の天井

市立博物館（下白銀町）　見

史跡である弘前公園の木に配慮して建てられた。当時のひっそりした博物館の印象を変えるため、館内の様子が外から見えるように配置した。

開放的なロビー ▶

※入館料が必要。詳細は22ページの博物館企画展に掲載。

カメラを持って出かけてみませんか？

弘前観光コンベンション協会
白戸大吾さん

最近、写真映えすると人気の弘前の建物巡り。弘前城や明治大正期の洋風建築に加え、前川建築にも注目が集まっています。

コルビュジエの国立西洋美術館が世界文化遺産に登録された直後から、前川作品を旅行雑誌やファッション誌でも見かけることが増えました。洗練されたデザイン空間として、市民会館などでアパレルメーカーのカタログやPR用動画の撮影も行われています。

皆さんもぜひ、カメラを持って前川建築を巡ってみませんか？